

第11章 3. フランス革命とナポレオン d. ジャコバン派の独裁(2)

②[1 恐怖]政治

→[2 公安]委員会(執行機関)への権力集中、[3 保安]委員会(警察機関)・革命裁判所設置
革命実行委員会

恐怖政治の内容: 4 王党派やジロンド派などの反対派を処刑し革命を進展させようとする政治

[5 ダントン] (穏健派)、エベール(過激派)などジャコバン派内部の反対派の処刑
→恐怖政治を進める[6 ロベスピエール]らの孤立化、いっそうすすむ。

③ジャコバン独裁への反発の高まり

商工業ブルジョワ=[7 最高価格]制に反発、[8 自由経済]の復帰を要求
農民(とくに富農)=小土地所有農民となり、保守化傾向を強める
民衆層=直接民主政、土地の一層の解放などを要求、ダントン・エベールらの処刑へ反発
バントーズ法=土地の無償分配、などを要求
国民公会=恐怖政治の見直しを恐れる

④ 1794.7.27[9 テルミドールの反動]=国民公会内で恐怖政治に反対するクーデタ発生
→[10 ロベスピエール]一派は逮捕・処刑される

政権の座に着いたジャコバン政権は[11 最高価格]制で物価を安定させるとともに直接普通選挙など徹底した民主主義を内容とする1793年憲法を制定、メートル法、[12 徴兵]令、革命暦、理性崇拜の強制など急進的な改革を実施した。さらに[13 封建地代の無償廃止]を実施、以後のフランスに大きな影響を与えた。しかしこの政策は農民を[14 保守]化させるきっかけともなった。

ジャコバン政権は革命をよりいっそうすすめるため[15 公安]委員会(最高執行機関)などに権力を集中し、反革命派(王党派・ジロンド派など)などをつぎつぎと処刑する[16 恐怖]政治をおこない、[17 ジャコバン]派内部でも対立が深刻化していった。

こうした政治はしだいに国民各階層の不満をひきおこした。[18 商工業市民]らは自由経済への復帰をのぞみ、[19 土地]を獲得した農民たちはもはやこれ以上の変化をのぞまなくなった。

このような空気のなか、[20 1794]年7月27日国民公会でクーデターがおこり、恐怖政治を主導した[21 ロベスピエール]一派が逮捕処刑された。これを[22 テルミドール]の反動という。

e. 皇帝ナポレオンの誕生

①テルミドールの反動以後、保守派(=[23 ジロンド]派)の復活
恐怖政治の解消、[24 最高価格]制の廃止→経済の混乱の再発=民衆の不満高まる

[25 1795年]の憲法制定=[26 総裁]政府の成立
制限選挙、二院制

②反政府運動のたかまり

・[27 バブーフ]の陰謀=革命の一層の進展をめざす、[28 私有財産]制否定をめざす
=「共産主義」的思想

・[29 王党]派の反乱=[30 カトリック]勢力と結ぶ

③商工業ブルジョワ、富農ら=革命の成果を維持することを求める。→より強力な政府をのぞむ

テルミドールの反動後、ジロンド派などの政府が復活した。そして1795年の憲法が制定され、[31 総裁]政府が成立したが、経済の混乱、民衆の暴動、王党派の反乱、[32 バブーフ]の陰謀など国内の

政情不安はつづき、諸外国との戦争も続いた。こうした混乱のなかで台頭してきたのが[33 ナポレオン]であった。

④[34 ナポレオン]の台頭

ア)[35 コルシカ]島出身、かつてジャコバン派左派に属す。王党派鎮圧などで台頭
地中海の島・独立運動も存在

イ) 1796~97年の[36 イタリア]遠征(第一回)でオーストリアを破りに成功、[37 対仏大同盟](第一回)を解体させる。

ウ) 1798 イギリスに打撃を与える目的で[38 エジプト]に遠征、失敗
※学術調査団を随行=[39 ロゼッタ石]の発見→シャンポリオン、エジプト文字解読へ
→第二次対仏大同盟成立=フランス、軍事的危機に陥る

⑤ 1799年11月9日フランスに帰国、[40 ブリュメール18日]のクーデタ

→[41 総裁]政府を打倒し、[42 統領]政府を樹立し独裁権を確立、[43 革命の終結]を宣言

テルミドールの反動以後、勢力を伸ばしてきた軍人[44 ナポレオン]は第一次イタリア遠征でオーストリアを破り[45 対仏大同盟]解体(第一回)に成功した。しかし[46 エジプト]遠征に失敗し第二回対仏大同盟が成立する中、ナポレオンは単身フランスに帰国、[47 1799]年11月9日クーデターをおこない、[48 総裁]政府を倒し[49 統領]政府を樹立し自ら第一統領として巨大な独裁権を得た。これを[50 ブリュメール18日]のクーデターという。そしてその翌日、彼はフランス革命の終結を宣言した。

⑥ナポレオンの外交

ア) 1800 第二回[51 イタリア]遠征でオーストリアを破る→第2回対仏大同盟解体
イ) 1801[52 カトリック勢力](=ローマ教皇)との和解(コンコルダート)の成立→王党派の反乱減少
ウ) 1802 イギリスとの間で[53 アミアンの和約]を結ぶ=一時的な平和の実現(~1804)

⑦ナポレオンの内政

ア) 1800[54 フランス銀行]設立、税制改革、商工業振興により経済の安定
→[55 都市民衆]の不満の緩和

イ) 公教育制度の確立

ウ) 1804[56 ナポレオン法典]の公布=「所有権の法典」

法の下での[57 平等]、[58 所有権]の不可侵や[59 契約]の自由など革命の中で獲得した権利を[60 法]的に定着させる。

エ) 1804 国民投票で[61 皇帝]の地位につく(=[62 第一帝政]の成立)

独裁者となったナポレオンは、1800年に二度目のイタリア遠征を成功して[63 第2回対仏大同盟]を崩壊させ、教会財産の没収以来対立していた[64 カトリック]勢力と妥協し[65 王党]派の反乱の基盤を奪った。またアミアンの和約で[66 イギリス]との間の休戦を実現、一時的な平和を回復させた。内政では[67 フランス]銀行設立や財政改革の実施により経済の安定をはかり、[68 都市民衆]の不安をやわらげ、[69 ナポレオン法典]の編纂で市民や農民が獲得した権利を法的に確認した。こうした政策は国民の強い支持を得、1804年かれは[70 皇帝]に就任、こうして[71 第1共和]政はおわり、[72 第1帝]政がはじまる。